

言語障害(失語症と構音障害)

失語症は、脳血管障害や脳外傷の後遺症で起こる言語障害です。

聴力は正常ですが話を聞いて意味を理解することが困難になります。

視力も正常ですが、文章を読んで意味を理解することが困難になります。

声を出すことも出来ますが、考えを言葉で表すことが困難になります。

手に麻痺は無くても、文字を思い出すことが難しいので、自分の考えを書いて表すことも困難になります。

脳損傷の部位によって、症状に特徴があり、損傷の広いほど症状も重くなります。

記憶力や判断力は正常ですので、自分の考えが表現できないこと、他人の言うことが理解できないことに本人は非常に苦しみます。

また、話が通じないことで、知的な障害であるように扱われることには人間としての尊厳が損なわれます。

かな文字や話し言葉でのコミュニケーションは困難ですが、身振り、表情、イラスト、絵、漢字単語、カレンダーや時計などを理解することは可能です。また、軽症であれば、ゆっくり話してもらうこと、言葉が出るまで待ってもらうことで、ゆっくりな会話は成立します。

構音障害は舌や咽喉などに麻痺があるので言葉が明瞭に発音できませんが、ゆっくり話してもらうことで大体の話は出来ます。もし、通じない場合には文字を書いてもらうか、50音表などを指差していただくことで本人の意思は確認できます。

失語症のおもな特徴

外見からではわからない。

右まひを伴う人が多い。(身体の麻痺が殆ど無い場合もある)

言葉を話そうとしても、なかなか出てこない、あるいは、言葉が出てても言い間違いをしている場合がある

話を聞いて、その内容を理解することが難しい。

軽度の人でも、早口、長い文章、複雑な内容が理解できない

計算ができない場合がある

右側の視野が欠損している場合がある

コミュニケーションの方法

【話しかけるとき】

言葉だけではなく具体的に人や物を指し示してゆっくり言葉かけをする

話の要点を漢字や絵で示しながら話す(コミュニケーションのノートの活用)

短い文章で、話す

はい、いいえで、答えられる質問をする。

話すときは、ゆっくり、はっきり、口元を見せながら話す。

文章を書くときは、漢字単語で書き表す。(長い文章・かなの多い文章は理解できない)

一度目で理解できなければ、繰り返す、あるいは別の言い方で言う。

一度に多くのことを話さない。理解したことを確認して、次の項目に移る。

失語症者は分かっているように振る舞うことが多いので、大事なことはメモを書いて渡す

【本人の話を聞くとき】

本人の言葉が出るのをせかさず、じっくり待つ

時計・カレンダー、絵文字記号などが書かれているボードを目の前に置いておく

イラストや絵を描きながら話すことを勧める

50音表の文字盤を使うことはできない

ことばに窮しているときには、こちらが話題の的を次第に絞って確かめる

言葉の誤りは否定せず、さりげなく、適切な言葉を添える

本人の話したことを漢字単語や絵で書いて、こういうことですか？と確認する。

身振りをするのを促す